

多収「なついろ」田植え

三重・JA伊勢
中西和益が 県内トツプ切り

【三重・伊勢】JA伊勢管内の紀宝町大里地区で25日、中西和益さん(77)が県内トツプを切って2025年産水稲の田植えを始め

た。中西さんはこの日、県が開発した多収性品種「なついろ」の苗を、水田約30㌦に植え付けた。今年産から取り組む品種だ。

同町では生産者2戸が、温暖な気候を生かして米の早期出荷に取

り組んでいる。これまででは、「あきたこまち」を栽培していたが、25年産からは「なついろ」を作付けす

る。「なついろ」は、県が開発した品種で、高温登熟性に優れた早生品種で、いもち病への抵抗性が強いことから収量の増加が期待される。

中西さんは「鳥害に遭って収穫量が減った年もあったが、おいし

い米を消費者に提供できるように今年も頑張る」と話した。

JA営農企画指導グループの濱口修好副グループ長は「収穫期まで台風や自然災害などの被害がなく、順調に生育が進むことを願う」と話す。



「なついろ」を植え付ける中西さん
(25日、三重県紀宝町で)